

CASE

08

採択年度
27 28

ワタリセ自然農場

ワイン特区を活かした
専用品種による
ワイナリーの醸造設備導入

自分の育てたブドウでワインを造りたい! 専業農家として
培った野菜栽培のノウハウで、ワイン醸造、販売まで一貫
したこだわりのワイナリーができました。

事業担当 藤田 佳三



DATA

ワタリセ自然農場

代表者 代表 藤田 久
所在地 〒808-0123
 北九州市
 若松区有毛1788
TEL 093-741-1949
FAX 093-741-1949
業種 ワイン製造
資本金 —
設立 2013年4月1日
社員数 3人



1

PICKUP STORY

流通の変化に伴い、
ワイナリー設立を決意

地元の野菜直売所など向けに農作物を生産、出荷してきました。通年野菜の生産を手掛ける一環で、夏の農産物として、食用ブドウの栽培を始めました。インターネットを使って生産農家が農産物や加工品を直売するビジネスモデルに魅力を感じていたころ、長野県で行われたワイナリーの勉強会に参加。温暖で海に近い北九州市はワイン造りに適していると直感し、2013年にワイン品種のブドウ栽培をスタートしました。

2

PICKUP STORY

委託醸造から内製へ
ワンストップの
ワイン造り

テスト栽培用で始めた作付面積は10アール。150~200本(750ミリリットルボトル換算)ほどができる規模です。収穫したブドウは2015年から2年間、福岡県久留米市にあるワイナリーで委託醸造しました。ただいつまでも委託醸造のままではコストも抑えきれず、品質も安定しません。北九州市初のワイナリー開設に向けて、地元の応援を受け同市が国家戦略特区のワイン特区に指定されました。これが推進力となり、酒類製造免許取得に至りました。

そこで今回、ものづくり補助金を活用して2017年度に醸造機器一式を導入しました。プレス機や果汁を発酵させるステンレスタンク、瓶詰機などです。現在は8~9月に収穫したブドウを発酵中で、2000本程度の生産量を見込んでいます。

北九州発 ワイナリーの挑戦!

3

PICKUP STORY

生産量、取引先、
品質の拡充を目指す

生産量は少ないですが、販売は順調です。地元に限らず東京や関西地方などからもお声をい



ただき、視察に来られる方も多くいます。農園で開いた苗植えや収穫イベントでは、50~100人の地元の皆さんに参加してもらいました。そうした面からも次回出荷分は地元ファンを優先に販売していきます。5年後をめどに年間約1万本を出荷するワイナリーを目指します。先祖から引き継いだ土地、家族でできるこだわりの農業は、大量生産というわけではなく多品種少量生産になります。であればこそ、安心安全低価格で納得が



いく商品を楽しみにしてくれるファンに届けたいです。今後は北九州発のワイナリーとして、ワインを中心に食や地域のイベントと連携・協力して地域を元気にしていきたいです。

COLUMN

ここから始まる、北九州発ワイナリー戦略!

QUESTION 1

補助事業を活用した理由を聞かせてください。

ワイン醸造の内製化です。委託醸造はコスト、品質の面が課題でした。農園でとれた新鮮なブドウを、その場で搾り、醸造することは品質に直結するだけに、設備導入は大きな弾みとなりました。

QUESTION 2

醸造の内製化によるメリットは?

製造コストが500円下がりました。ファンへはリーズナブルな商品を提供できます。同時に競争力が高い商品開発ができ、利益率が上がることで経営の安定化につながります。

QUESTION 3

今後の展開を教えてください。

目標は年間8000本から1万本のワインを製造するワイナリーです。付加価値の高いワインをつくるため品種選び、醸造に手間をかけ、ファンを増やしていきたいです。



ここがポイント

人との出会いから

農業で、ものづくり補助金を!? 意外な感じがするかもしれません。ワイナリー開設は、相談した商工会議所など、多くの方にお世話になりました。ものづくり補助金が目標への背中を押してくれました。

